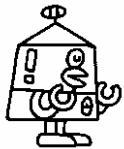


イヌ、魚、鳥は、どうやって子育てするの



イヌは赤ちゃん、鳥はたまごを産むけど、どちらも1人前になるまで子育てするよ。魚は、たまごを産むだけか多ね。

たまごを産む動物は、子育てするものは少ない

たまごを産む動物には、鳥、魚、貝、こん虫のなかま、イカやタコ、ヘビ、カメ、カエルなどがいます。これらの中で、親がたまごを温め、えさをとってきてあたえ、自分でえさがとれるようになるまで子育てするのは、鳥のなかまです。

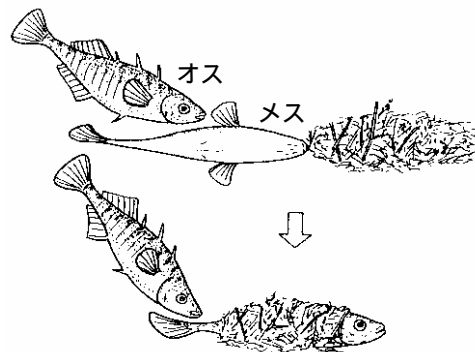
魚の中には、親がたまごや子魚を口の中に入れて守るネブツダイや、オスが巣を作り、たまごや子魚をてきから守るトゲウオなどがいます。でも、たいいていの魚は、たまごを産むだけで、子育てはしません。

こん虫やヘビなどのは虫類も、あまり子育てはしません。

たまごを産みっぱなしで子育てをしない動物は、ぶじに親まで育つ数が少ないため、いちどに産むたまごの数が多くなります。鳥のように、子育てをする動物の産むたまごの数は、せいぜい数個すうこになります。

赤ちゃんを産む動物は、自分で生きていけるようになるまで子育てする

長い間人間に飼われてきたイヌは、生きていくために自分でえさをさが探したり、獲え物ものをとらえたりすることがなくなってきています。でも、野生の動物は、肉食なら獲物のとらえ方、草食なら食べられる植物や根、木の実などの見つけ方を知らないと、生きていけません。そのため、親はちち乳をあてて育て、えさの見つけ方、身の守り方などを教えて、子どもが生きていけるようになるまで子育てします。



巣をつくってメスにたまごを産ませ、子魚を守るトゲウオ